

令和6年度 学校評価（共通項目）評価書

和光市立新倉小学校

柱	No.	評価項目	自己評価	自己評価の説明及び学校の考え	関係者評価	学校関係者評価の説明
学校の組織運営	1	学校は、学校教育目標達成に向けて全教職員で組織的に取り組んでいる。	A	学校教育目標を意識してその具現化に努めている様子が見える。今後も一人一人が自信をもってその具現化に携わることができるよう、さらに意識を高めていく。	A	「地域と共に生きる子」を意識し、学校教育目標の実現に向けて取り組んでいる。また、地域ミーティングなど学校関係者、教職員、地域保護者による話し合いに活発な意見が出されていた。
	2	学校は、安全・安心に配慮し、危機管理体制を整えている。	A	保護者、地域の協力も得て校内整備に努めたが、今後は時代に沿った訓練や各種マニュアルを作成していく必要がある。	A	おやじの会により、ピロティ校舎床シートの張替えも行われ、危険な場所等を把握し改善に努めている。今後も、保護者、地域でどのように危機管理の意識を高めていくか、検討していく必要がある。
基礎学力の定着	3	児童生徒は、教職員の指導により、基礎学力を身に付けている。	A	ステップアップ教室や習熟度別の繰り返し学習により、学力向上につながることができた。子供たちのニーズや状況にあった学習を進められるように今後も努めていく。	A	児童の実態に応じた指導を行っている。ベテラン教諭からの指導法やICTを活用した新たな指導法など、ベストミックスした指導法を積極的に取り入れ、前年度からの積み重ねを維持していくことが大切である。
	4	学校は、学力向上を目指し、児童生徒の実態に基づいて授業改善に努めている。	A	児童アンケートからも、「めあて」、「振り返り」を意識した授業を展開することができた。今後も児童の実態に基づいたさらなる意欲を高めていく。	A	学校公開、授業参観等で、指導や学習の様子を確認することができている。今後も子供たちの主体性を重視し、他者との対話による学習展開が進められるとよい。
	5	学校は、学習ルールを共通理解するなど、学習規律の確立が図られている。	B	全体で意識して取り組んだ結果が表れている。引き続き、学習規律の確立を図っていききたい。	A	学校として共通理解を図った取り組みが進められている。今後も子供たちの様子をとりえながら、継続した取組に期待する。
規律ある態度育成	6	児童生徒は、生活のルールに基づき、発達段階に応じた規律ある態度を身につけている。	A	あいさつができる児童が増えている一方で、場に応じた言葉遣いに課題がある。次年度以降も改善に向け、焦点を絞って取り組んでいきたい。	A	知っている人以外の人に自ら挨拶をすることに苦手意識がある。誰にたいしても気持ちの良い挨拶ができるよう、学校、家庭、地域と連携し、取組を強化していく。
	7	学校は児童生徒の実態把握に基づき、規律ある指導の工夫・改善に努めている。	A	毎月の生活目標から、子供たち自身が規律ある態度への意識を高めることができた。今後も引き続き継続していく。	A	具体的な様子等がまだ見えにくい。指導の工夫・改善等について、保護者・地域に発信（HP、さくら連絡網等）していくなどの取組を検討してほしい。
健康・体力向上	8	児童生徒は、体育の授業や運動部活動、外遊び等の運動に意欲的に取り組んでいる。	B	子供たちが外で遊んだり、体育の時間に思いっきり運動したりする機会は増えている。今後も家庭と連携し、体を動かすことを推進していく。	A	休み時間や体育の授業では、先生たちと一緒に楽しそうに過ごしている。20分休み等の長縄タイムの取り組みは児童が主体となり、体力向上にもつながっている。このような取り組みを継続してほしい。
	9	学校は、児童生徒の体力を高めるため、意図的に向上策を講じている。	A	子供たち自身は、体育や外遊び等、体を動かすことへの興味関心が高い。今後も具体的な活動等を通して意図的な向上に努めていく。	A	さまざまな取組の様子を保護者・地域にわかるよう発信していくことも重要である。今後の取組や発信に期待したい。
連携	10	学校は、保護者や地域と連携し、その教育力を学校運営や教育活動に生かしている。	B	教職員一人一人の意識改革に大きな課題があることから、今年度行った熟議での話し合いの内容を具現化し、教職員一人一人の意識を高めていく。	B	150周年記念行事は、教職員、学校関係者の企画、運営により、児童の心に残る行事となった。今後も教育活動の成果を保護者、地域に配信し、学校に関心をもってもらうことが大事である。

注：「自己評価」及び「関係者評価」の欄はA～Dで記入